第４章　目黒区環境マネジメントシステムの取組

事業者などが自主的に環境保全に関する取組を進めるにあたり、環境方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくための仕組みを「環境マネジメントシステム」といいます。

本章では、区の環境マネジメントシステムである「目黒区地球温暖化対策推進第二次実行計画（めぐろエコ・プランⅡ）」における２０１７（平成２９）年度の取組実績と、取組に対する評価について報告します。

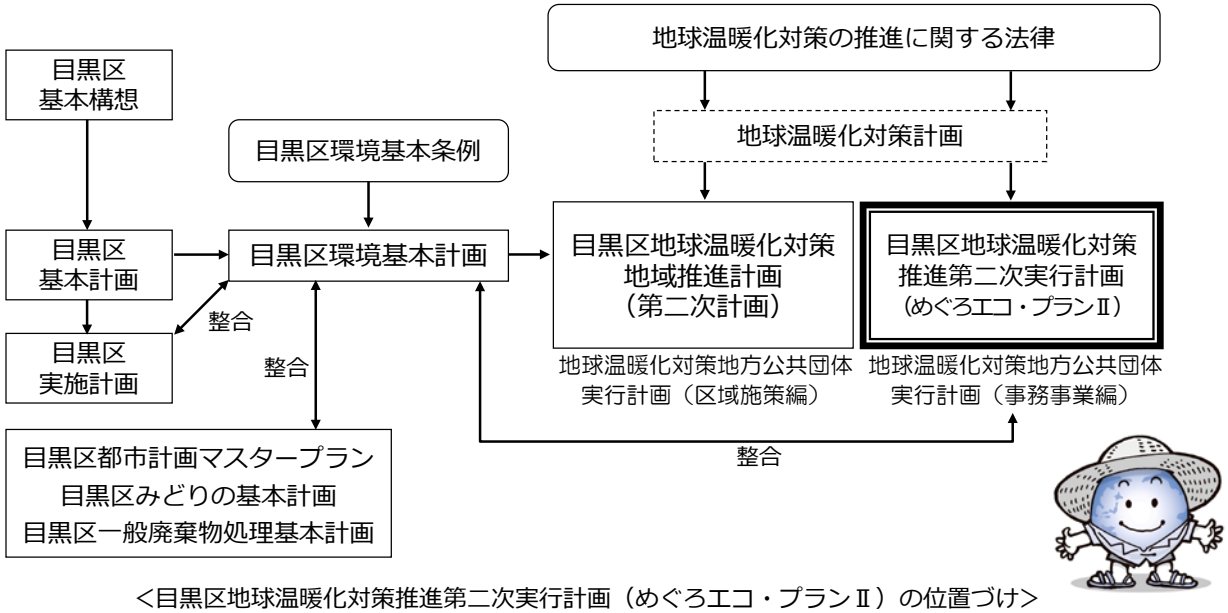
目黒区地球温暖化対策推進第二次実行計画（めぐろエコ・プランⅡ）
～低炭素社会実現に向けた目黒区率先行動計画～

区は、最も身近な自治体として、また区内における大規模な事業所のひとつとして、率先して地球温暖化対策に取り組んでいます。

2009（平成21）年4月に、それまで取り組んできた「ＩSO14001[1]」と「新エコ・アクションプログラムめぐろⅡ[2]」を発展的に解消し、区有施設のすべてを対象とした「目黒区地球温暖化対策推進実行計画（めぐろエコ・プラン）」を策定し、２０１４（平成２６）年３月に第二次実行計画として改定しました。

この計画は、低炭素社会実現に向けた温室効果ガス排出量を削減するための総合的な仕組みであるとともに、循環型社会実現に向けた環境負荷低減に資する取組の推進を図るもので、「地球温暖化対策の推進に関する法律」第２１条第１項に規定する「地方公共団体実行計画」です。

<めぐろエコ・プランⅡ
ポケットブック>

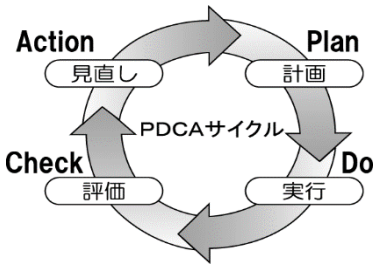


<目黒区地球温暖化対策推進第二次実行計画（めぐろエコ・プランⅡ）の位置づけ>

[1] ＩSO14001：環境に関する国際標準規格。
[2] 新エコ・アクションプログラムめぐろⅡ：２００６（平成１８）年３月に策定した区独自の「地球温暖化対策推進地方公共団体実行計画」。

「目黒区地球温暖化対策推進第二次実行計画（めぐろエコ・プランⅡ）」

［目　　標］区の事務事業に伴って排出される温室効果ガス排出量・エネルギー使用量を、２０１２（平成２４）年度を基準として、計画最終年度の２０１８（平成３０）年度において５%以上削減します。
［期　　間］２０１４（平成２６）年度から２０１８（平成３０）年度までの５年間
［対象範囲］総合庁舎、庁外施設などを含めた区有施設のすべて
（ただし、区営住宅など個別の使用者が光熱水費を負担している施設は除く）
［取　　組］・大規模施設における省エネルギー活動の推進
・小規模施設における事業特性を活かした省エネルギー活動の推進
・日常業務でのエコオフィス活動の推進
・省エネルギー機器の段階的導入
・新築、改築、改修時における省エネルギー・再生可能エネルギー設備などの導入など
・低燃費車の導入
・温室効果ガス吸収作用の保全・創出
［管理対象］①温室効果ガス排出量の算定対象項目（重点管理対象）
・電気、ガス、水道（下水道）の使用量（清掃工場などの他の施設からの熱などの供給を含む）
・化石燃料の使用量（ガソリン、ＬＰＧ、軽油、灯油、重油、ＬＰＧ《プロパンガス》の使用量）
②温室効果ガス排出量の算定対象項目以外の管理対象
・用紙の購入量（使用量）
・ごみの排出量
・グリーン購入の推進
・緑化の量（緑化面積）
・省エネルギー機器などの導入量
・低燃費車などの導入実績



本計画では、ＰＤＣＡサイクルによるマネジメントシステムを活用し、組織的な進行管理と継続的改善を行います。

２０１７（平成２９）年度の取組結果

全区有施設を対象として、低炭素社会実現に向けた総合的な温室効果ガスの削減と循環型社会実現に向けたエネルギー使用量の削減やごみの減量など、環境負荷の低減の取組を進めました。

温室効果ガス排出量・エネルギー使用量の削減

●温室効果ガス排出量・エネルギー使用量の状況

７月の気温が平年より高く、また、１２月から１月の気温が平年を下回る気象状況で、同月の電気・ガスの使用量は前年度比より大幅増となりましたが、省エネルギー機器の導入及び節電、節水に取り組んだ結果、温室効果ガス（二酸化炭素換算）排出量原単位は、２０１２（平成２４）年度（基準値）と比較して0.1%減少しました。また、エネルギー（原油換算）使用量原単位も、２０１２（平成２４）年度（基準値）と比較して1.4%減少しました。

温室効果ガス（二酸化炭素換算）総排出量（算出方法：使用量など×排出係数）について排出源別に見ると、電気（６６.4%）、次いで都市ガス（２９.8%）となっており、上位２項目で９６.2%を占めています。このことから、温室効果ガスの排出量の削減には、電気・ガスの使用量を削減することが重要であるといえます。

<温室効果ガス（二酸化炭素換算）排出量原単位>

	2012（平成24）年度（基準年）	2015（平成27）年度	2016（平成28）年度	2017（平成29）年度
排出量原単位（単位：t-CO_2/千m^2）	43.071	42.452	43.853	43.045
対基準年度比		−1.4%	+1.8%	−0.1%

<エネルギー（原油換算）使用量原単位>

	2012（平成24）年度（基準年）	2015（平成27）年度	2016（平成28）年度	2017（平成29）年度
使用量原単位（単位：KL /千m^2）	23.415	23.109	23.766	23.079
対基準年度比		−1.3%	+1.5%	−1.4%

<電気、都市ガス、水道、下水道、ガソリンの使用量内訳>

区分	2012（平成24）年度（基準年）	2015（平成27）年度	2016（平成28）年度	2017（平成29）年度	対基準年度比
電　　気（千kWh）	32,081	31,714	32,281	32,427	+1.1%
都市ガス（千m^3）	2,862	2,636	2,848	2,950	+3.1%
水　　道（千m^3）	793	737	730	721	−9.1%
下 水 道（千m^3）	799	733	726	719	−10.0%
ガソリン※（千L）	38	54	48	47	+23.6%

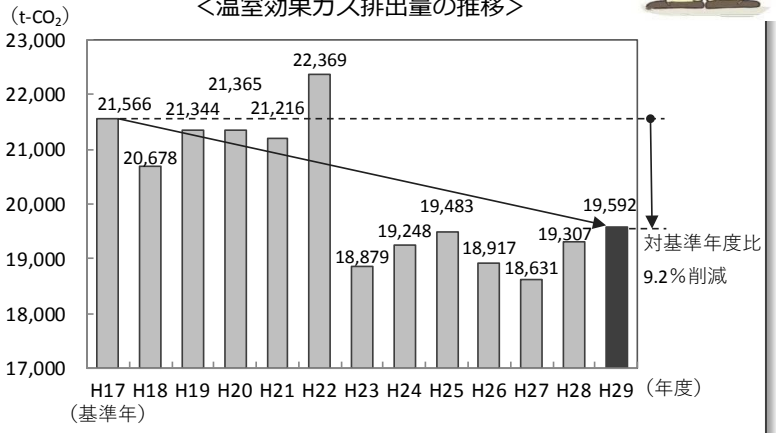
※ ガソリンは使用量ではなく購入量。

トピックス

温室効果ガス排出量の推移（前計画との比較）

「めぐろエコ・プランⅡ」では、温室効果ガス総排出量・エネルギー総使用量を区有施設の総延べ床面積で割った「千㎡あたり」の原単位により削減率を計算しています。そのため、温室効果ガス排出量については、第一次実行計画の基準年度２００５（平成１７）年度との比較も行います。

<温室効果ガス排出量の推移>



温室効果ガス削減に向けた取組

●省エネルギー・再生可能エネルギー設備の導入

２０１６（平成２８）年度に引き続き、区有施設において、改修時に省エネ性能の高い照明や空調機などの省エネルギー機器の導入などを行いました。また、低燃費車（軽自動車）を１台導入しました。

<施設の新築・改築・改修時における省エネルギー・再生可能エネルギー設備の導入など>

施設名	導入した省エネルギー・再生可能エネルギー機器※1
目黒区総合庁舎	ＬＥＤ照明※2
東山小学校	熱負荷を低減する建物、外壁断熱、複層ガラス、ＬＥＤ照明、高効率パッケージエアコン、全熱交換器（同ユニット）、節水器具
菅刈小学校ほか小学校８校※3	ＬＥＤ照明
第一中学校	ＬＥＤ照明
不動保育園	ＬＥＤ照明
平町児童館	トップランナー変圧器、ＬＥＤ照明、高効率パッケージエアコン、全熱交換器（同ユニット）、節水器具
烏森住区センター児童館第二学童保育クラブ	外壁断熱、複層ガラス、日射遮蔽、ＬＥＤ照明、高効率パッケージエアコン、全熱交換器（同ユニット）、節水器具
特別養護老人ホーム東が丘	ＬＥＤ照明
碑文谷保健センター	ＬＥＤ照明
月光原住区センター	ＬＥＤ照明
不動住区センター	高効率パッケージエアコン
目黒区美術館	ＬＥＤ照明
めぐろ区民キャンパス	高効率熱源機器、排熱投入型熱源機器

※1　区の施設における省エネ・再エネ機器の導入「量」のすべては把握していません。
※2　ＬＥＤ照明は、ベースライト、ダウンライト、外構、誘導灯を含みます。
※3　中目黒小学校、油面小学校、向原小学校、五本木小学校、田道小学校、月光原小学校、不動小学校、東根小学校

●緑化の推進

温室効果ガスの吸収作用の保全・創出を図るために、区有施設の改修時などに緑化を行いました。

<緑化の推進：施設の新築、改築などにかかる緑化（主なもの）>　（単位：㎡）

施設名	緑化形式	緑化面積
田切公園	樹木・草地緑化	７７１.４
東山児童遊園	樹木・草地緑化	２１７.６
烏森住区センター児童館第二学童保育クラブ	樹木・草地緑化	2.7
東山小学校	樹木・草地緑化	1,１１４.８
合　　計		2,１０６.５

※ 緑化面積は、小数点第２位を四捨五入しています。

●啓発など

職員を対象とした環境研修の実施（開催４回、参加人数６２人）や「めぐろエコ･プランⅡポケットブック」の配布、啓発ポスターの作成・掲示を行うことで、職員の意識啓発を図りました。また、エコオフィス活動や地球温暖化対策の関連情報をわかりやすく提供する「めぐろエコ・プラン通信」（第２９号から第３２号）を作成して、庁内メールで発信しました。

環境負荷の低減に向けた取組

●ごみの排出量と紙の使用量

「ごみの排出量」と「紙の使用量」は、前年度以下に減らすことを目標としています。２０１６（平成２８）年度と比較すると、ごみの排出量は減少しました。紙の使用量のうち、用紙の購入量は増加しましたが、外注印刷物は減少しました。

<ごみの排出量>　（単位：ｔ）

区　分		２０１４（平成２６）年度	２０１５（平成２７）年度	２０１６（平成２８）年度	２０１７（平成２９）年度	対前年度比
排出量		１,２６５	１,１０６	１,１２３	１,１００	－２.０%
内訳	燃やすごみ	１,０６８	９３４	９４０	９２３	－１.８%
	燃やさないごみ	１７２	１４５	１５７	１５３	－２.５%
	資源	２５	２７	２５	２５	０%

<紙の使用量>　（単位：万枚）

区　分	２０１４（平成２６）年度	２０１５（平成２７）年度	２０１６（平成２８）年度	２０１７（平成２９）年度	対前年度比
用紙の購入量	４,１００	３,８６２	４,１６６	４,３６９	＋４.９%
外注印刷物	４,２７１	４,０２５	３,４８０	３,４５１	－０.８%

※ 紙はＡ４サイズに換算しています。

２０１７（平成２９）年度の取組結果に対する評価

区民と学識経験者からなる第三者評価委員会が、「めぐろエコ・プランⅡ」の２０１７（平成２９）年度の取組結果について評価しました。評価結果を踏まえ、今後も環境負荷の低減に努めていきます。

（取組全体に対する意見）

異常気象下の中、対前年度比でここまで数値を戻したことは評価したい。しかし、温室効果ガス排出量の削減が不十分であるので、目標達成に向けた抜本的な改善策を検討する必要がある。時代に即した実行計画（エコ・プラン）を策定し、推進体制や取組を強化してほしい。